

20221007

検討用
別紙資料

令和 4 年

藤井寺市

作成：株式会社スタジオ三十三

第6章 観光案内計画

基本理念にある『「タビマエ」・「タビナカ」・「タビアト」』のどのようなシーンにおいても活用される施設。かつ、市民にも引き続き愛され、観光客との交流によりさらに発展的に利用される施設を目指す」にあたり、アイセルシュラホールにおける観光案内計画について、シーンごとの役割を示す。また、併せて市民と観光客との交流の創出、アイセルシュラホール周辺のサイン計画について記す。

6-1 アイセルシュラホールにおける観光案内計画について

「タビマエ」・「タビナカ」・「タビアト」のシーンごとにおけるアイセルシュラホールの役割、さらには、それぞれの役割の具体的な案内方法について記す。

タビマエ

プロモーション事業等誘客施策により来館された観光客が古市古墳群を周遊する前に、情報収集や体験を通じてワクワク感を高めていただくとともに、事前に古市古墳群をはじめとした観光資源の情報を得ることでより充実した旅へと導く。

また、通りがかりや他目的で来館された市民にも興味・関心をもってもらえるような仕掛けづくりを行う。

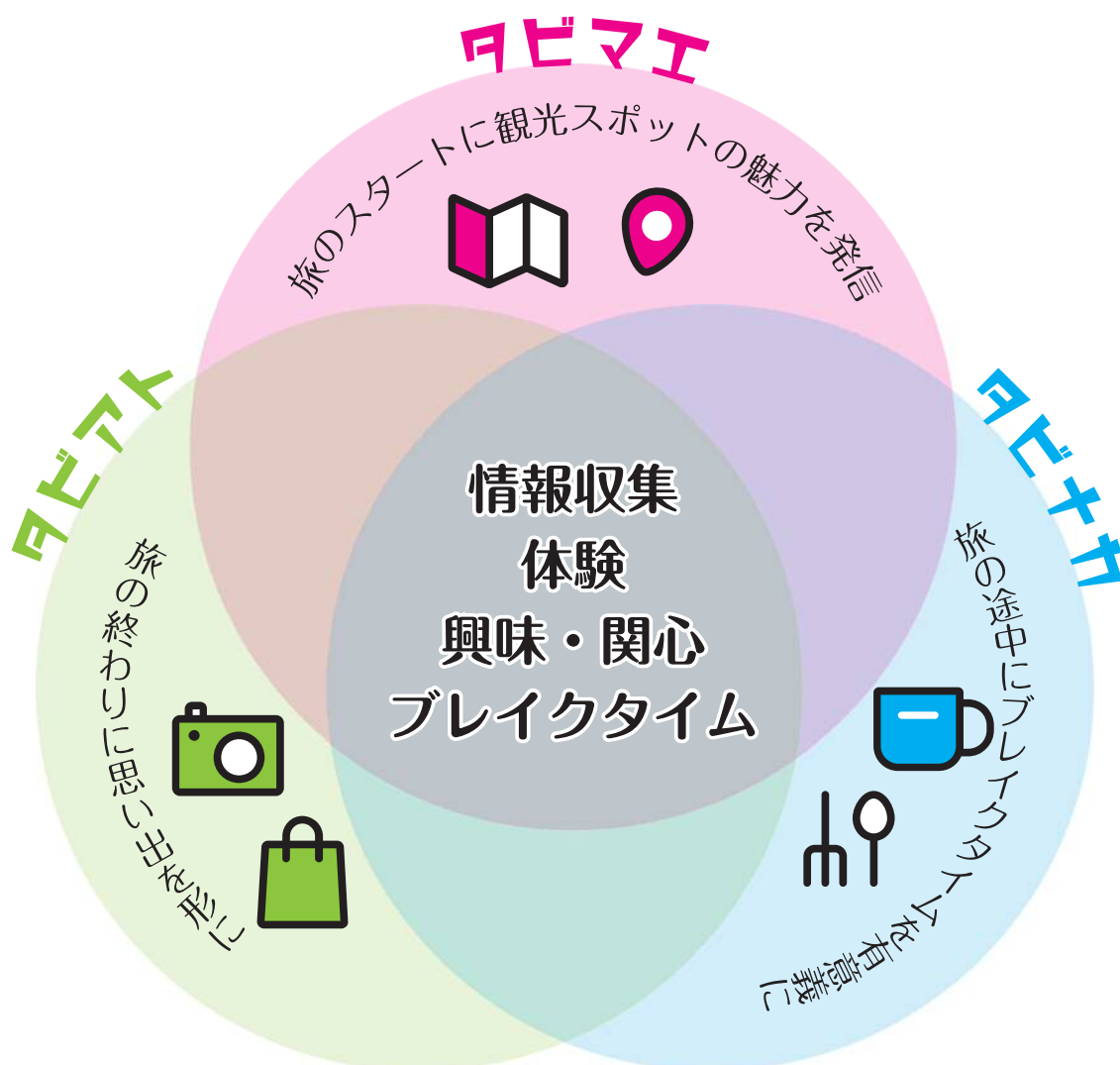
タビナカ

観光客が古市古墳群周遊の途中で立ち寄り、休憩や食事、体験を通じてくつろげる空間としての非日常観を味わっていただく。また、展示やガイダンスにより、先に訪れた観光スポットの情報を定着させるとともに、これから訪れる場所をより一層楽しんでもらえるような工夫を施す。

タビアト

観光客が古市古墳群周遊後に立ち寄り、休憩や食事、体験、お土産の購入を行っていただくことで旅の満足感にプラスアルファを与える。また、展示やガイダンスにより、訪れた古墳をはじめとした観光資源の情報を反芻して余韻を楽しんでもらうことで、リピート利用につなげる。

アイセルシュラホールにおけるシーンごとの役割イメージ



興味・関心

- 現温室を多目的に利用できる屋外テラスとすることで、周辺環境と合わせたにぎわいづくりを演出する。
- ピロティにインパクトのある大修羅のレプリカを設置し、入館前のワクワク感を高める。
- エントランスに古墳ジオラマの設置や床面または壁面への航空写真の装飾、柱へのラッピング等の施工により観光拠点としての世界観を表現する。
- 現事務所を改装したウェルカムラウンジにて、映像コーナーを設け、プロモーション動画等の導入コンテンツを放映することで観光客や市民の興味・関心を引くとともに、藤井寺市の魅力を存分に伝える。
- イベント時や展示コーナーが使用されていない状況においては、展示コーナーを文化財整理作業公開の場として活用し、観光客および市民に普段見ることのできない作業風景を見学してもらうことで特別感を演出する。
- 現地域安全センターをシアタールームに改装し、石室風の入口を設けることで観光客や市民の興味・関心を引く。

情報収集

- ウェルカムラウンジ内観光案内所にて各種パンフレットやスタッフによる案内にて情報を提供するとともに、ガイドの申し込み受付を行い、観光客の旅をサポートする。
- デジタル観光案内板により常時最新の情報を提供し、また多言語案内を可能とすることでインバウンド需要にも対応する。
- シアタールームにおいて、古市古墳群についてより深く知ってもらうために古市古墳群の映像を放映する。
- 文化財展示室および世界遺産ガイダンスコーナーでは、あらゆる層に届くよう、単なる遺物の展示に留まらず、実物、レプリカ、ジオラマ、映像等、様々な工夫を施し、古市古墳群の歴史的、世界遺産としての価値はもとよりその背景のストーリーを伝える。

体験

- 2階に設ける体験コーナーにおいて、観光客のニーズに合わせて手軽にできるものから本格的なものまで幅広い体験メニューを設け、特別感を演出することによって、旅の充実を図る。また、その担い手を地元の観光ボランティアが行うことで、市民と観光客との交流を図る。

休憩・食事

- 現高齢者憩いの場を改装した図書コーナー兼レストルームにおいて、観光客、市民ともに幅広い世代が図書を介してくつろげるスペースを提供する。
- 現喫茶コーナーを、地元の飲食店などがカフェやワゴン販売にて飲食物を提供するフジイデラ屋内マルシェとすることで、その雰囲気を残しつつ、よりにぎわいのある空間として再構築する。
- 屋外エリアにおいて、多目的テラスやその周辺環境を利用し、キッチンカー等と合わせてオープンカフェエリアを創出する。

お土産購入

- ウェルカムラウンジ内にミュージアムショップを設け、ここでしか手に入らないオリジナルグッズや地域物産を提供し、旅の満足感にプラスアルファを与える。
- 各種体験によって観光客自らが制作したものをそのままお土産として持ち帰っていただくことで、旅の記憶の定着を図る。

6-2 市民と観光客との交流の創出

アイセルシュラホールにおける市民と観光客との交流を創出するための具体的な手法について記す。

- 地元観光ボランティアの役割として、古墳周遊におけるガイドのほか、新たにアイセルシュラホールにおける文化財展示の解説や各種体験の運営、さらには市民や観光客の研究、学習に対する補助等を行うことで、市民と観光客との交流の中心的な役割を担う。
- フジイデラ屋内マルシェの運営を地域事業者が担うことで、地域産品を提供するとともに、自由な発想による民間活力を活かし、シェアキッチンの導入やテナント誘致等を行い、食を通して市民と観光客との交流を図る。
- 地域の事業者や団体、大学をはじめ、まちづくりにかかわる人々にワークショップや研究の場を提供し、その成果および過程が観光客のより充実した旅につながる仕組みづくりを行う。
- 展示コーナーにおいて、引き続き自主学習グループの展示の場として活用するとともに、市民や大学等の研究活動の発表の場としても活用することで、作品等の成果品を通じて市民と観光客との交流を図る。
- 各レストコーナーを誰もが自由にくつろげる空間とすることで、市民、観光客に関わらずあらゆる層の利用を促し、にぎわいづくりを演出する。

6-3 アイセルシュラホール周辺のサインについて

アイセルシュラホールにどのように誘導するのか、また、アイセルシュラホールからどのように案内するのかが観光拠点施設として非常に重要なタスクであるが、後者は、前述の「6-1 アイセルシュラホールにおける観光案内計画について」において記してあるよう、施設内における様々な案内により担うことが可能である。しかし、アイセルシュラホールにどのように誘導するのかという課題に対しては、プロモーション事業等誘客施策のほか、施設周辺のサインが非常に重要である。

現状、アイセルシュラホール周辺のサインについては、第2章の現状と課題でも触れたように、案内板や電柱にサインはあるが、目立ちにくく案内が不十分である。これらの原因の一つとして、デザイン等の仕様に統一性がないことや数が少ないことがあげられる。

これらを解決するため、アイセルシュラホールへの誘導において最も主要なルートである近鉄藤井寺駅からの案内についてサイン計画案を示すこととする。

6-3-1 想定される主要ルート

近鉄藤井寺駅からアイセルシュラホールまでは、下記ルートが想定される。

ルート1 近鉄藤井寺駅南出口から線路沿いに東に進む。



ルート2 藤井寺一番街商店街を南に進む。



ルート3-1 商店街を抜け、葛井寺西門（重要文化財「四脚門」）より葛井寺境内を通り、南大門より参道を南に進む。

ルート3-2 商店街を抜け、左手に葛井寺西門（重要文化財「四脚門」）、右手に辛國神社の参道を見ながら南に進み、藤井寺西小学校南東の交差点を南東に進む。

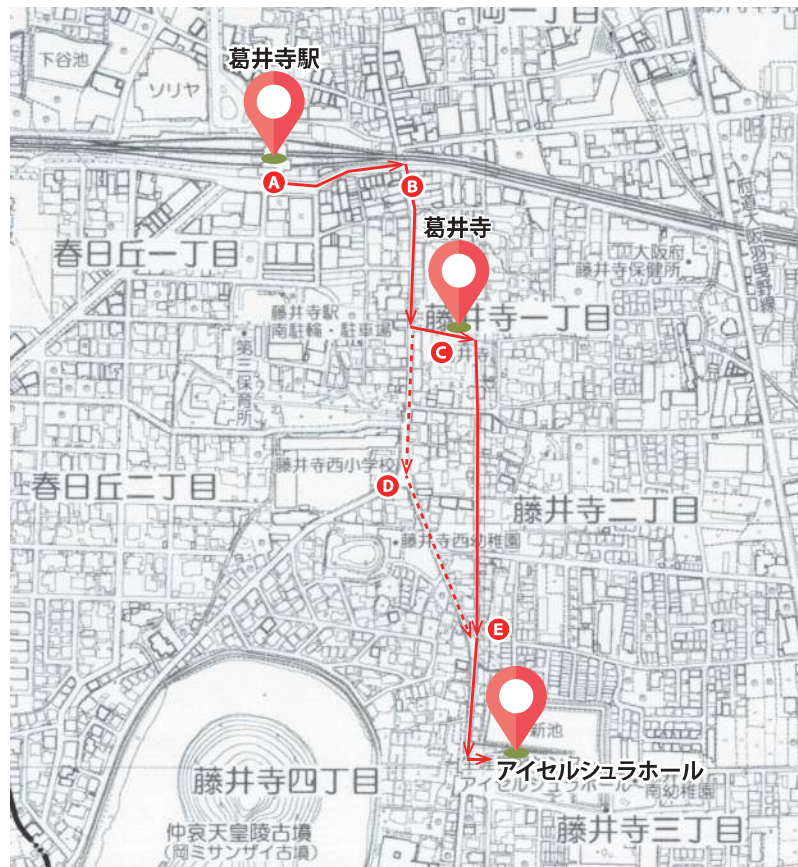
※ルート3-2では、辛國神社からアイセルシュラホールまでの道中が間延びしてしまうため、辛國神社参拝のうえ、ルート3-1に誘導したい。



ルート4 ルート3-1 および3-2 のどちらも、藤井寺共同墓地の北にある交差点で合流し、交差点から南に直進すると左手にアイセルシュラホールが見える。

6-3-2 主要ルート上における案内

主要ルート上における案内をスポットごとに示す。



① 近鉄藤井寺駅

- 【図①】 近鉄藤井寺駅改札を出ると正面の、券売機横にバスのデジタル時刻表の上に「葛井寺」の案内が掲示されているが、同様に、改札を抜けてすぐ目につく場所に、「アイセルシュラホール」の案内が必要と考える。
- 【図②】 南出口方面の駅構内には、デジタルサイネージの藤井寺駅周辺案内図があり、その横の掲示板上に「観光案内所ゆめぶらざ」へ誘導するポスターを掲示しているが、スペースを活用し、「アイセルシュラホール」への誘導を行う必要がある。
- 【図③】 南出口から駅を出るとすぐに藤井寺市案内板があり、駅南側の主要スポットを紹介している。パンフレットケースのさらなる活用を行いたい。



図①



図②



図③

⑤ 商店街、観光案内所ゆめぶらぎ

- 【図④】 藤井寺一番街商店街の入口アーケードには、「葛井寺観音参詣道」とあるが、同様に世界遺産のまちをPRする必要がある。
- 【図⑤】 観光案内所機能の移転後も引き続き地域情報の発信を行い、アイセルシュラホールへの案内を行う。
- 【図⑥】 世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」ののぼりが数本あるが、商店街を挙げての世界遺産のまちをPRし、同時にアイセルシュラホールへの案内を行う必要がある。
- 【図⑦】 アーケード下案内出口にはより直接的なアイセルシュラホールへの誘導が必要と考える。



図④



図⑤



図⑥



図⑦

⑥ 葛井寺、辛國神社

- 【図⑧⑨】 藤井寺駅から葛井寺および辛國神社まで来られて帰られる方々に、もう一步足を延ばしてアイセルシュラホールまで来てもらうためには、寺社の掲示板等を活用し導線の分断を防ぐ案内が必要である。また、推奨するルート3-1への誘導も行いたい。



図⑧



図⑨

【図⑩⑪】 葛井寺南大門から㊦地点までの約 200m に渡って案内がないことから、南大門を出てすぐのところ、もしくは参道の間地点にある交差点付近に景観を損なうことのない図⑮のような誘導表示板が必要と考える。



図⑩



図⑪

㊦ 藤井寺西小学校南東交差点付近

【図⑫⑬】 藤井寺西小学校南東に藤井寺市案内板があり、駅南側の主要スポットを紹介している。パンフレットケースを設置するなどさらなる活用を行いたい。



図⑫



図⑬

㊧ 藤井寺共同墓地北交差点付近

【図⑭⑮】 ルート3-1 および 3-1 のどちらの場合もこの位置で合流することから、アイセルシュラホールへの誘導上非常に重要な地点である。現状、図⑮の誘導表示板が建っており現状維持とする。



図⑭



図⑮

第7章 文化財展示計画

第7章では、基本理念を基にしながら展示計画の考え方を明記する。その展示計画の考え方に沿って展示全体の構成を記し、これを文化財展示計画とする。

7-1 展示計画の考え方

基本理念を基にしながら展示計画の考え方について記す。

世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値を表現

①歴史展示展示コーナーと、世界遺産と藤井寺市の紹介コーナーの全2コーナー構成で、世界遺産百舌鳥・古市古墳群を多面的なテーマで紹介

- 来館者が、世界遺産としての古市古墳群の価値を知る・学ぶにあたり、世界遺産としての価値を確実に来訪者に伝達し、古市古墳群を一層楽しめる施設を目指す。
- 古市古墳群の成立から、世界遺産百舌鳥・古市古墳群として現在にいたるまでの展示を展開することで、古市古墳群の価値や現在とのつながりを見られるようにする。
- 展示を見た後に、アイセルシュラホールから実際に古市古墳群へ足を運ぶ動機付けになるような展示を展開する。

②来館者・市民参加型の展示・活動の在り方を探求

- 展示室内に体験コーナーを設け、体験を通して来館者が古市古墳群について、より深く学べる場所を設ける。
- ボランティアや市民の参画を得ながら、ボランティアによる展示解説や、古墳の市民研究の場としても活用し、ともに展示をつくる試みを目指す。

7-2 展示の全体構成

「A 歴史展示コーナー」「B 世界遺産ガイダンスコーナー」の2つの展示コーナーをメインに、アイセルシュラホール2階全体を古墳ミュージアムととらえ、世界遺産百舌鳥・古市古墳群の出土遺物やレプリカ、グラフィックパネル、模型などをそれぞれの展示コーナーのテーマに沿うように展示し、基本理念に基づいた展示空間を演出する。

また、古墳ミュージアムとしての展示内容の充実させることで、世界遺産百舌鳥・古市古墳群について興味を持ち、より深く知る事で古市古墳群と藤井寺市内を楽しく巡ることができるような展示構成を行い、訪れた人の満足度の向上をはかる。

7-3 各展示コーナーの展開

※最終的には具体的な展示物や内容を記載する予定

A 歴史展示コーナー

現在の2階の図書コーナー・自習室・歴史展示コーナー（北側）にて展開し、4つのエリアに分ける。

A-1 展示エントランス

A-2 古市古墳群成立 前史（旧石器時代～古墳時代前期）

A-3 古市古墳群の成立

A-4 巨大な古墳づくりに関わった人々（収蔵展示含む）

現在の歴史展示室で展開し、2つのエリアに分ける。

A-5 古墳の葬送儀礼と埴輪の世界（聖なる空間の展示）

A-6 大小さまざまな形の古墳の有機的関係を示す展示（主墳と倍塚など）

現在のAVコーナー（受付含む）・歴史展示コーナー（南側）展開し、3つのエリアに分ける。

A-7 その後の古市古墳群（古代・中世・近世）

A-8 人々とのかかわり

B 世界遺産ガイダンスコーナー「古墳時代終焉後の古市古墳群～現在の古市古墳群のすがた」

B 世界遺産百舌鳥・古市古墳群

7-4 その他の展示・空間利用

アイセルシュラホール2階全体を古墳ミュージアム化し、より充実した空間にするにあたり、2つのメイン展示以外にも関連展示を行う。

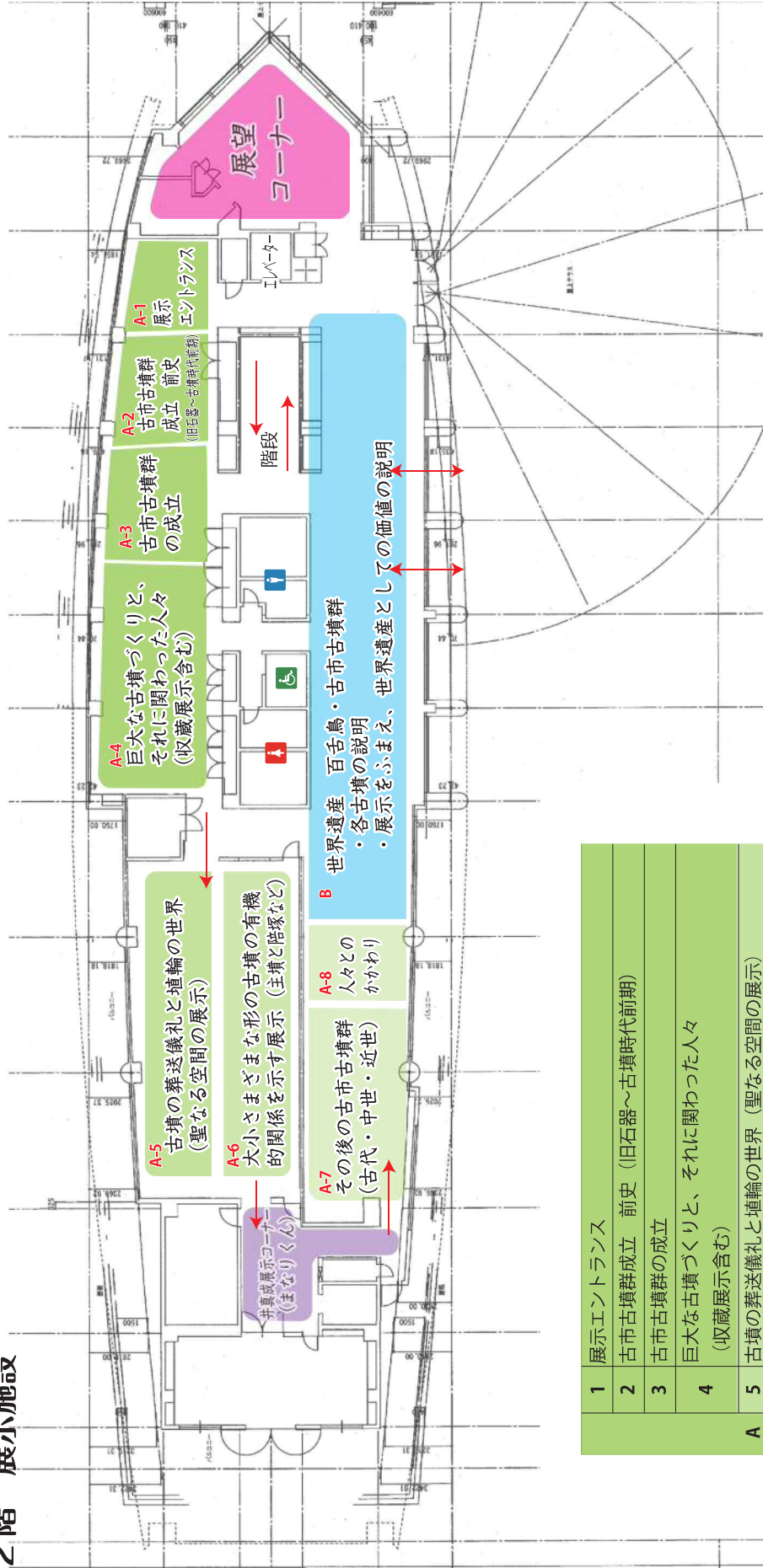
井真成展示コーナー（まなりくんの部屋）

現状の井真成展示コーナーをもとに、藤井寺市の公式キャラクターであるまなりくんを活用して、訪れる人に親しみやすさを持ってもらう。同時に、歴史展示コーナーと世界遺産ガイダンスコーナーの間に井真成展示コーナーがあることで、2階古墳ミュージアム全体の展示に緩急をもたらす役割をもつ場所とする。

展望コーナー

現幼児コーナーを展望コーナーとし、古市古墳群や藤井寺市内を一望できる空間とする。

2階 展示施設



1	展示エントランス
2	古市古墳群成立 前史 (旧石器～古墳時代前期)
3	古市古墳群の成立
4	巨大な古墳づくりと、それに関わった人々 (収蔵展示含む)
5	古墳の葬送儀礼と埴輪の世界 (聖なる空間の展示)
6	大小さまざまな形の古墳の有機的関係を示す展示 (主墳と陪塚など)
7	その後の古市古墳群 (古代・中世・近世)
8	人々とのかわり
B	世界遺産 百舌鳥・古市古墳群 ・各古墳の説明 ・展示をふまえ、世界遺産としての価値の説明